

# 經濟論叢

第九十四卷 第五號

## 豊崎 稔教授記念號

---

献 辞 .....	堀 江 英 一	
帝国大学特別会計と演習林 .....	島 恭 彦	1
独占資本家層再編の 紐帯 .....	大 橋 隆 憲	20
レーニン『帝国主義』の 段階規定について .....	吉 村 達 次	37
添田プランと高橋意見書 .....	小 野 一 一 郎	56
日本の合織産業における 若干の問題点について .....	中 村 忠 一	74
公共料金問題と独立採算制 .....	寺 尾 晃 洋	91
現代交通政策の基本動向 .....	中 西 健 一	112

豊崎 稔 教授略歴・著作目録

---

昭和三十九年十一月

京 都 大 学 經 濟 學 會

## 豊崎 稔 教授略歴

- 明治三四年（一九〇一年） 一月二八日 徳島県に生れる
- 大正一〇年（一九二二年） 三月 徳島県立徳島中学校卒業
- 大正一三年（一九二四年） 三月 山口高等商業学校卒業
- 〃 〃 四月 東北帝国大学法文学部入学
- 昭和二年（一九二七年） 三月 東北帝国大学法文学部卒業
- 〃 〃 三月 東北帝国大学法文学部助手
- 昭和四年（一九二九年） 四月 大阪商科大学助手
- 昭和六年（一九三一年） 三月 大阪商科大学講師
- 昭和七年（一九三二年） 三月 大阪商科大学助教授
- 昭和十四年（一九三九年） 九月 日本学術振興会学術部第二三小委員会研究嘱託
- 昭和十六年（一九四一年） 九月 大阪商科大学教授
- 昭和十八年（一九四三年） 一月 大阪府商工経済会理事（調査部長）
- 昭和十九年（一九四四年） 三月 大阪商科大学教授辞任
- 昭和二〇年（一九四五年） 六月 日本学術振興会学術部第七七小委員会委員
- 〃 〃 十一月 経済学博士

昭和二十二年（一九四六年）三月

日本學術振興会第九〇小委員会委員

〃 〃 〃 四月

京都帝國大學經濟学部講師

〃 〃 〃 八月

大阪府商工經濟会退職

〃 〃 〃 九月

京都帝國大學經濟学部教授（經濟政策講座担任）

昭和二十二年（一九四七年）七月

内閣高等試驗臨時委員

昭和二十二年（一九四八年）六月

京都大學評議員（昭和二十七年七月まで）

昭和二十四年（一九四九年）一月

京都大學經濟学部長（昭和二十六年一月まで）

〃 〃 〃 一二月

大藏省関稅率審議會委員

昭和二十五年（一九五〇年）九月

文部省學術奨励審議會専門委員

昭和二十六年（一九五一年）一月

日本學術會議第二期會員

〃 〃 〃 一二月

京都大學制度委員会委員

昭和二十七年（一九五二年）八月

グレート・ブリテン、イタリア、フランスおよびドイツの四ヶ国出張

〃 〃 〃 （同年一月まで）

昭和二十九年（一九五四年）七月

京都大學評議員（昭和三十一年七月まで）

昭和三十一年（一九五七年）一月

日本學術會議第四期會員

昭和三十三年（一九五八年）三月

アメリカ合衆国へ出張（同年五月まで）

昭和三十四年（一九五九年）五月

内閣稅制調査会委員

昭和三五年（一九六〇年） 一月

日本学術会議第五期会員

” 四月

外務省外務公務員採用上級試験委員

昭和三六年（一九六一年） 一月

法務省司法試験（第二次試験）考查委員

昭和三七年（一九六二年） 一月

京都大学大学院審議会審議員

” 一月

京都大学評議員（昭和三九年七月まで）

” 一〇月

セイロンおよびタイの各国ならびにシンガポールおよび香港へ出張

（同年十一月まで）

昭和三八年（一九六三年） 一月

日本学術会議第六期会員

” 三月

通産省産業構造調査会委員

” 七月

京都大学大学制度委員会委員

昭和三九年（一九六四年） 六月

中華人民共和国へ出張（同年七月まで）

# 豊崎 稔 教授著作目録

## 著書

- 景気予測法研究—景気研究法の批判的發展概説—(大阪商科  
大学研究双書第二册)、大同書院、昭和七年(一九三三)  
三〇五ページ
- 景気論序説、高陽書院、昭和一〇年(一九三五)一六二ページ
- 景気論(現代金融經濟全書第三三卷)、改造社、昭和一〇年  
(一九三五)二八六ページ
- 經濟統計の作り方と見方、高陽書院、昭和一〇年(一九三五)  
二六六ページ
- 期米價格と正米價格との相關關係の統計的研究(日本學術振  
興會學術部第六小委員會報告第六册)、日本學術振興會、  
昭和十一年(一九三六)一一五ページ
- 貨幣的景氣理論、甲文堂書店、昭和十二年(一九三七)二〇  
一ページ
- 同(増補版)、甲文堂書店、昭和十六年(一九四一)二二九  
ページ
- 同(再刊)、白鯨書房、昭和二十三年(一九四八)二三一ページ
- 同(再刊)、勁草書房、昭和二十六年(一九五一)一九六ページ
- 戰爭と物価(戰爭經濟双書第一編)(編)、大同書院、昭和一  
二年(一九三七)一三二ページ
- 戰爭と國家財政(戰爭經濟双書第二編)(編)、大同書院、昭  
和十二年(一九三七)一四五ページ
- 戰時體制と貿易統制(里井達三良・狭間源三共著)戰爭經濟  
双書第五編(編)、大同書院、昭和十三年(一九三八)一  
三一ページ
- ウエルナー・ゾムバルト、戰爭と資本主義(立野保男訳述)  
戰爭經濟双書第六編(編)、大同書院、昭和十三年(一九  
三八)一二七ページ
- 日本經濟と原料問題(牛尾真造共著)戰爭經濟双書第七編  
(編)、大同書院、昭和十三年(一九三八)一九一ページ

現代景気変動論(現代学芸全書二三)、三笠書房、昭和一五年(一九四〇)二六三ページ

日本経済と機械工業、科学主義工業社、昭和一五年(一九四〇)二五一ページ

日本機械工業の基礎構造(大阪商科大学経済研究所調査彙報第一五輯)、日本評論社、昭和一六年(一九四一)四七四ページ

同(改訂版)、日本評論社、昭和二四年(一九四九)三二八ページ

日本工業の課題(新経済体制叢書七)、富山房、昭和一八年(一九四三)二二五ページ

経済学の国民的主体性、甲文堂、昭和一八年(一九四三)一九二ページ

片山内閣とインフレの前途(豊崎)、再建日本産業の構想(粟本)(粟本順三共著)エコンミスト双書一、毎日新聞社、昭和二二年(一九四七)五九ページ

農村工業の進路(家の光文庫)、全国農業会家の光協会、昭和二二年(一九四七)一四二ページ

インフレーション・危機・勤労階級、白鯨書房、昭和二二年(一九四七)二五二ページ

経済変動論、創元社、昭和二四年(一九四九)二五一ページ

アメリカ景気の動向(編)、弘文社、昭和二四年(一九四九)

一五〇ページ

経済政策論(経済全書一)、三笠書房、昭和二五年(一九五〇)二二二ページ

ドップ経済学解説(一〜二巻)(編)、春秋社

一卷 資本主義発展の研究、昭和二七年(一九五二)一九八ページ

二巻 経済学と資本主義、昭和二七年(一九五二)一九四ページ

独占(経済学新大系第三卷)(編)、河出書房、昭和二七年(一九五二)二三八ページ

独占企業論(中村忠一共著)経営経済学大系九、三笠書房、昭和二八年(一九五三)二五〇ページ

現代資本主義講座(全七巻)(編)、東洋経済新報社、昭和三三年(一九五八)

経済成長と構造—米ソ経済比較論—(編)、法律文化社、昭和三八年(一九六三)四三八ページ

経済政策講座(全四巻)(監修)、有斐閣、昭和三九年(一九六四)

翻訳書

ユフ・アー・ハイネク、貨幣と景気変動、高陽書院、昭和九年(一九三四)一九二ページ(F. A. V. Hayek, *Price and*

*Production*, Wien, 1931)

ディール・ニイチ・ロバートソン、貨幣政策と物価—景気変動論—、大同書院、昭和十一年（一九三六）一五七ページ  
(D. H. Robertson, *Banking Policy and the Price Level*, London, 1926)

タメート・ウィックセル、金利と物価—貨幣の交換価値決定原因に就ての研究—、高陽書院、昭和十二年（一九三七）二四三ページ (J. G. K. Wickseil, *Geldzins und Güterpreise, eine Studie über die den Tauschwert des Geldes bestimmenden Ursachen*, Jena, 1898)

ユフ・アー・ハイエク、価格と生産、高陽書院、昭和十四年（一九三九）一九二ページ（前記「貨幣と景気変動」の訂正訳）

ブルクス・エメニイ、軍需資源論、河出書房、昭和十四年（一九三九）二三四ページ (B. Emery, *The Strategy of Raw Material: A Study of American in Peace and War*, New York, 1937)

オイゲン・フォン・ベルクマン、国民経済学的恐慌学説史論（三谷友吉共訳）（抄訳）、高陽書院、昭和十六年（一九四一）四九六ページ (E. v. Bergmann, *Geschichte der Nationalökonomischen Krisentheorien*, Stuttgart, 1895)

## 論 文

昭和四年（一九二九年）

Time Sequencesの相関に就て——経済的時系列事象の度数分布曲線に就ての研究の序説——、『山口商学雑誌』第四号

銀行信用の資本集中媒介に就て、『山口商学雑誌』第五号

景気循環理論の主観価値法則的基礎付けの研究（上・下）——Bouhatanの恐慌理論の断片——、『商業及経済研究』第五五—五六冊

昭和五年（一九三〇年）

好景気化政策としての産業合理化に関する一考察、『商業及経済研究』第五七冊

景気循環指数作成の一方法、『経済時報』第一卷一二号

景気循環に関するウィックセルの貨幣市場主義（上・中・下）、

『大阪銀行通信録』第三九五—三九七号

好景気化と高貨銀政策、『経済時報』第二卷八号

景気現象の統計的研究方法の発展、大阪商科大学創立五〇周年記念論文集

昭和六年（一九三一年）

動的生産均衡式の誘導に関する一考察、『商業及経済研究』第五九冊

景気悪化と金融資本の政策、『大阪銀行通信録』第四〇七号  
独占期の企業経営と恐慌予見——動的企業経営論の一片——、『企業経営』第五卷二号

ドイツ恐慌とドイツ銀行制度——ドイツ金融恐慌の一教訓

——、『大阪銀行通信録』第四一〇号

景気予測と経済体制、『大阪銀行通信録』第四一一号

個々の経済領域の景気予見法、『大阪銀行通信録』第四一二号

号

景気政策としての金輸出禁止政策、『経済時報』第三卷九号

昭和七年（一九三二年）

景気予測に於ける統計的解析法、『山口商学雑誌』第一〇号

長期的景気波動説の一考察、『経済時報』第三卷一一号

市場観察法の原理、『企業経営』第六卷二号

大戦後の景気変動と統計的予見方式、『経済時報』第四卷一

号

最近のドイツ金融機関と金融市場との構成、『大阪銀行通信

録』第四一七号

計画経済と経済不況、『大阪銀行通信録』第四一八号

永続的販路停滞と資本形成、『経済時報』第四卷五号

衰頹的發展に於ける好景気の機構、『経済時報』第四卷九号

独占期の景気転換と景気進行、『大阪銀行通信録』第四二四

号

昭和八年（一九三三年）

独占期の景気変動とインフレーション、『大阪銀行通信録』

第四二六号

世界恐慌の進行と資本家の循環、『自由通商』第六卷四号

当来貨幣制度と経済安定、『大阪銀行通信録』第四二八号

世界恐慌と経済会議、『自由通商』第六卷七号

「管理」金本位と金融景気（上・下）、『エコノミスト』第一

一年一四一—一五号

世界恐慌打開策としての資本減価、『経営研究』第一卷二号

増税と景気転換、『経済往来』第八卷一一号

統計的景気分析と経済的正常均衡、『大阪商科大学経済研究

所年報』第四号

財政圧迫と資本形成、『自由通商』第六卷一二号

信用政策と景気煽揚、『経済時報』第五卷九号

昭和九年（一九三四年）

現段階の資本蓄積とその跛行性、『経済往来』第九卷五号

レニブケの二次恐慌論、『経済時報』第六卷三号

独占制下の財政と景気変動（上・中・下）、『エコノミスト』

第一二年一二一—一四号

現段階の生産過剰問題、『大阪銀行通信録』第四四四号

金融緩慢の現段階的性質、『大阪銀行通信録』第四四七号

昭和一〇年（一九三五年）



独占資本制下の景気研究法、『山口商学雑誌』第一六号  
各国貿易政策と世界貿易景気、『自由通商』第八卷三号  
世界経済と各国景気政策、『経済時報』第六卷一二号  
トンドの測定に就て、『日本統計学会年報』第四冊  
米価の季節変動、『大阪商科大学経済研究所年報』第七号  
ハイエックの中立貨幣論、『銀行研究』第二九卷四号

昭和十一年（一九三六年）

産業資本制と貨幣景気論、『経済時報』第八卷二号  
景気の物価と貨幣操作的物価——景気微候論への一寄与——  
『銀行研究』第三一卷二号

昭和十二年（一九三七年）

物価政策論対立の根拠、『銀行研究』第三二卷三号  
物価対策の軌跡、『ダイヤモンド』第二五卷一五号  
景気理論と信用理論との交渉——信用の資本家的理論に就て  
の——の批判——、『経済学』（東北大研究年報）六  
独占資本制と恐慌周期（上・下）、『エコノミスト』第二十五年  
一九二〇号

準戦時型財政と資本蓄積過程、『経済時報』第八卷一一号  
ナイセルとシニェルンベルク——再生産と外国市場の必然性  
を中心とする論争批判——、『経済学雑誌』第一卷九号  
ドイツに於ける纖維原料問題、『綿業時報』第五卷一二号  
昭和十三年（一九三八年）

戦時経済下の労働者層、『社会事業研究』第二六卷一号  
戦時計画経済とその根本問題、『外交時報』第八六卷三号  
農村機械器具工業と農家経済（河田嗣郎共著）、日米学術振  
興会第二一小委員会編『時局と農村』第一冊  
高田保馬『利子論』昭和十二年（書評）、『経済学雑誌』第二  
卷六号

物価騰貴と中・小機械器具工業、『社会政策時報』第二一四号  
戦時下の価格機構とその対策の進展、『銀行研究』第三五卷  
四号

事変下の我産業とその機構、『外交時報』第八八卷二号  
日本産業改組編、『科学主義工業』第二卷五号

昭和十四年（一九三九年）

我國鉄鋼業の発達とその底流——世界恐慌後の状況を中心と  
して——、『経済学雑誌』第四卷三三号  
財政と国民経済、『財政』第四卷三号  
支那農村の封建制と西歐資本、『外交時報』第九〇卷二二号  
日本労働力の組成と再生産、『科学主義工業』第二卷一一号  
伯林景気研究所の景気研究法、『日本統計学会年報』第八年  
物価統制と需給調整問題、『商工経済』第七卷六号  
農業近代化論、『エコノミスト』第一七年一七号  
戦時再生産過程と物価政策、『銀行研究』第三七卷一号  
理論経済学に関する四文献——中山伊知郎「均衡理論と資本

理論」昭和一三年、武村忠雄「統制経済と景気変動」昭和一三年、中山伊知郎「發展過程の均衡分析」昭和一四年、杉本栄一「理論経済学の根本問題」昭和一四年（書評）、『経済学雑誌』第五卷三号

金属工業調査」事変下の金属加工業の業態——、『経済学雑誌』第五卷三号

昭和一五年（一九四〇年）

我国機械工業の将来——国内市場を中心として見たる——、

『工業組合』第三卷二号

日本機械器具工業の技術的発達、『経済学雑誌』第六卷四号

我国民経済の技術的編成、『改造』第二三卷五号

昭和一六年（一九四一年）

満洲鉱業・製鉄業の発達性、『経済学雑誌』第八卷二号

我国工作機械工業の生産技術、大阪商科大学創立六〇周年記念論文集

念論文集

金物工業の転形段階——統・金属工業調査——、『経済学雑誌』第九卷二号

昭和一七年（一九四二年）

農業における技術と経済、河田嗣郎編「農業新機構研究」

経済表分析上の若干問題、『経済学雑誌』第一〇卷四号

国防経済学の一節、「理想」第一三一号

生産力理論の現段階的課題、『統制経済』第四卷五号

経済政策の歴史的変遷とその現段階的特質（上・下）、『外交時報』第一〇二卷五・六号

高度工業国の確立とその様式、『日本評論』第一七卷七号

我国電気生産の発達過程（上・下）（近藤亮吉共著）、『社会政策時報』第二六二・二六三号

所得の国民経済的測定、『経済学雑誌』第一卷六号（河田前学長追悼論文集）

昭和一八年（一九四三年）

国民所得統計法に就て、上田貞次郎博士記念論文集第二卷

「経済の歴史と理論」

国民経済学の課題と方法、『東洋経済新報』第二〇六七号

アメリカの機械工業、『同盟世界週報』第二四卷二二号

国民所得の測定法、『経済学雑誌』第一二卷六号

農村下請工業、藤田敬三編「下請制工業」（日本学術振興会第二三小委員会報告「時局と中小工業」六）

昭和一九年（一九四四年）

工業体制の諸問題、神戸商科大学新聞部編「経済及経済学の再出発」

昭和二一年（一九四六年）

国民所得の現段階的測定法、『日本統計学会年報』第二二年

昭和二二年（一九四七年）

日本経済表と国際貿易、『エコノミスト』第二四年一四号

昭和二三年（一九四七年）

日本経済表と国際貿易、『エコノミスト』第二四年一四号

昭和二三年（一九四七年）

昭和二三年（一九四七年）

俗流インフレ論の迷妄、『改造』第二八巻一号

日本資本主義の二つの道、『世界評論』第二巻一号

インフレと安定貨幣、『エコノミスト』第二五年八号

日本資本主義と資本の主体的性格、『時評』第二巻二二二号

産業再建と経済計画、関西経済連合会編『経済再建の諸問題』

肥料工業国営論、『農政評論』第一巻二号

日本経済の危機と中小工業、『中小工業』第一巻一号

### 昭和二年（一九四八年）

労働の生産力と企業の収益力、『改造』第二九巻一号

社会化過程と中小工業、『世論と経済』第三巻三号

労働力労働者層と資本主義方式、『経済評論』第三巻五号

日本資本主義と労働組合の型、『労働問題研究』第一九号

外資導入とインフレーション——経済再建論の検討——、

『社会』第三巻五号

紡績国営論、『エコノミスト』第二六年一五号

外資の中小工業、『大学』第六号

生産力と資本主義、『経済学研究』（創元社）第二号

インフレーションと安定恐慌、『経済思潮』第九号

日本資本主義の現段階、『時論』第三巻一〇号

国民所得の測定に就て（上）、『経済論叢』第六二巻五号、

### 昭和二年（一九四九年）

農村経済の将来、『農民』第四巻一号

中小企業の存在価値、『技術と経営』第三巻三号

日本産業と世界経済、『時論』第四巻八号

経済政策学の立場、谷口知平編『法と経済の基本問題——恒藤博士還暦記念——』

日本経済の地位、『技術と経営』第三巻一一号

資産再評価と日本経済、『エコノミスト』第二七年三三三号

### 昭和二年（一九五〇年）

株価と物価と金利、『日日経済』第二巻三号

工業政策、東京商科大学一橋新聞部編『経済学研究的叢（経

済政策篇）』

賃金と物価——はしがきの考察——、『労働評論』第五巻五号

自立経済と産業構造、『エコノミスト』第二八年一五号

世界資本の経済政策と日本経済、『商工経済』第三巻六号

日本産業構造論、『経済人』第四巻八号

日本産業構造の変革過程、『エコノミスト』（特別号）

日本資本主義経済計画、現代社会思想講座第四巻『資本主義と社

会主義』

日本経済の自立体制確立の前途——世界経済の準戦時体制下

において見た——、『労働問題研究』第四七号

### 昭和二年（一九五一年）

一九五一年の日本経済、『商工経済』第四巻一号

ドッジ声明と日本経済、『輸出絹糸布月報』第二巻一号

世界危機と日本経済——戦後日本資本主義の運命——、『改造』第三二巻三号、

日本産業構造の「現実」と「矛盾」、『経済評論』第六巻二号

経済自立と貿易問題、『月刊貿易』第一巻一号

朝鮮休戦と新経済政策、『同盟時報』第一〇三号

朝鮮停戦と日本経済、『商工経済』第四巻八号

日本産業の姿態——軍事需要に基づく矛盾——、『労働経済旬報』第五巻一四三号

昭和二十七年(一九五二年)

対中貿易は何とかなできないか、『中央公論』第六七巻八号

昭和二十八年(一九五三年)

経済政策、岸本誠二郎他編「経済学いかに学ぶべきか(特殊問題篇)」

景気変動論、岸本誠二郎他編「経済学いかに学ぶべきか(特殊問題篇)」

西ドイツ産業の復興と労使関係、『月刊労働』第五二号

経済再建と長期経済政策、『東洋経済新報』第二五七六号

景気観測は如何に発展したか——前提の経済理論にはまだ問題がある——、『エコノミスト』第三一年別冊

昭和二十九年(一九五四年)

日本独占資本主義の戦後過程(その二)、日本資本主義講座

——戦後日本の政治と経済——第六巻「経済危機の深化と恐慌」

昭和三十〇年(一九五五年)

独占について、中山伊知郎他編「現代経済学入門(上)」(河

出新書六三三)(第二刷)

昭和三十一年(一九五六年)

経済学・経済政策学研究推進のために、『経済評論』第五卷

四号

工商都市の経済と政治、『都市問題研究』第八巻五号

経済政策学の理論的性格、『経済論叢』第七七巻六号

古典学派経済学者の研究手法、堀経夫博士遺稿論文集刊行会

編「古典派経済学の研究」

安定と進歩の測定方法、『エコノミスト』第三四年四五号

昭和三十二年(一九五七年)

経済政策学の方法論、『経済論叢』第七九巻一号

日本資本主義の構造(一)——安定構造分析上の問題点——、『経済評論』第六巻二号

『経済評論』第六巻二号

昭和三十三年(一九五八年)

アメリカ資本主義について——編集者への手紙——、『経済

評論』第七巻三号

経済政策論の性格および方法について、日本経済政策学会編

『経済政策の対象と方法』(日本経済政策学会年報 六)

不況の中のアメリカから——二〇人の「エコノミスト」と

の対談——、『経済評論』第七巻七号

アメリカ資本主義の基本動向——今次不況過程を通してみた

一考察——『経済評論』第七卷九号

現在の不況を解明する——過剩設備と投資効果をめぐって

——(都留重人、吉田義三、シンボジウム)、『経済評論』

第七卷一一号

戦後産業循環と恐慌、有沢広巳他編「現代資本主義講座」第

一卷

独占資本の構造、有沢広巳他編「現代資本主義講座」第三卷

昭和三四年(一九五九年)

「現代資本主義」論の必要、京都大学経済学部「京都大学経

済学部創立四〇周年記念『経済学論集』

アメリカ経済における技術革新、日本生産性本部編「アメリ

カの経済」新しい発展とその構造(アメリカ経済調査専門

視察団報告書)

日本における独占資本の社会的性格、『経済評論』第八卷八

号

昭和三五年(一九六〇年)

日本の経済政策と自由化、『経済セミナー』第四三号

現代資本主義と国家、福井孝治教授還暦記念論文集「社会経

済学の展開」

軍縮の経済的可能性と現実性、『世界』第一七四号

冷戦の拡大が軍縮への移行か——イギリス経済の場合——、

『経済評論』第九卷九号

個別独占産業の様相、有沢広巳他編「経済主体性講座第二卷

経済二」

戦後景気循環の特徴、『世界経済評論』第四卷一一号

昭和三六年(一九六一年)

現代資本主義論への一つの提示、『経済セミナー』第五七号

現代資本主義と労賃・所得分配の法則——現代資本主義解明

への一試論——、『日労協雑誌』第二九号

巨大企業の独占的構造、『経済評論』第一〇卷一一三号

転換期の日本経済とその政策、『経済セミナー』第六五号

昭和三七年(一九六二年)

戦後資本主義経済の成長と不安定性、『世界経済評論』第六

卷二号

経済構造と労使関係——現代資本主義研究の一寄与——、『日

労協雑誌』第三八号

昭和三八年(一九六三年)

景気後退の性格、『経済評論』第一二卷二二号

日本の産業構造と企業の課題、『世界経済評論』第七卷七号

昭和三九年(一九六四年)

ハイエタの景気変動論、『世界経済』第一九卷四号

Contemporary Capitalism and Law of Wage and Income

Distribution - A Preliminary Essay for Analysis of

Contemporary Capitalism, The Kyoto University Economic Review, Vol. 32, No. 2.

### 辞典

経済学辞典、大阪商科大学経済研究所編 岩波書店 昭和五

～七年(一九三〇～三二)

限界効用。限界対偶。レキシス(ワイルヘルム)。

同 追補、昭和二年(一九三六)

貨幣的景気学説。グラフ。景気変動統計。厚生指数。長期的景気波動。

経済学小辞典(編集)、大阪市立大学経済研究所編 岩波書

店 昭和二六年(一九五一)

恐慌||景気学説。経済政策。

統計学辞典、中山伊知郎編 東洋経済新報社 昭和二六年

(一九五一)

景気指数。

経済学大辞典(編集)、中山伊知郎他編 東洋経済新報社

昭和三〇年(一九五五)

企業集中(中西健一共筆)。構造変動(同上)。

工業大辞典(編集)、平凡社 昭和三四～三七年(一九五九)

六一)

### その他

豊崎 総教授還暦記念事業委員会編「現代資本主義の研究

——豊崎 総教授還暦記念論文集——」、日本評論新社

昭和三七年(一九六二)二八六ページ

(あとがき) 辞典の部は五種類の辞典に執筆のものに限った。新聞取録論文は省略した。なお、著作日録作成にあたっては、「豊崎 総教授還暦記念論文集」(昭和三七年)の「著作日録」を利用していただくとともに、京都大学経済学部調査資料室細川元雄氏に協力していただいたことをお礼申しあげる。

(木原正雄)